

重 要 記 録

1 米子市と淀江町の新設合併20周年（通年）

平成17年3月31日に旧米子市と旧淀江町との合併により新米子市が発足してから20周年を迎えた。

これを記念し、キックオフイベントとして「新米子市発足20周年記念セレモニー」を開催したほか、「新米子市発足20周年記念特別共催展『さくらももこ展』」、「新米子市発足20周年記念事業宝くじスポーツフェア ドリーム・ベースボール」、「次世代人材を育むふるさと教育推進事業」など、11の記念事業を実施した。

2 公共交通の充実と歩行空間の再整備による「歩いて楽しいまちづくり」の推進（通年）

箕蚊屋地区のコミュニティバス「みのりんバス」や米子駅～鳥取大学医学部附属病院間での自動運転バスの実証運行を行い、公共交通の更なる充実を図った。

さらに、米子駅南側の新たな玄関口となる市道米子駅目久美町線を「めぐみ通り」として整備するとともに、米子工業高等専門学校の学生提案を基に目久美公園のリニューアルを行うなど、歩いて楽しいまちづくりを一体的に推進した。

3 米子市・東草市の姉妹都市提携30周年（通年）

5月15日から18日まで、裴相堯（ペ・サンヨ）東草市副市長を団長とする代表訪日団23名を迎えた。

記念式典では共同宣言を発表し、今後のさらなる友好交流の推進を確認した。

また、10月23日から同月26日まで「米子がいな万灯振興会」を東草市へ派遣し、「雪嶽（ソラク）文化祭」において万灯を披露するなど、交流を深めた。

4 国際線の新規就航・増便（通年）

米子鬼太郎空港への台北便の新規就航及びソウル便のデAILY運航により、外国人宿泊者数が大幅に増加した。これらの機会を捉え、飲食店等の多言語対応への支援や観光案内看板の多言語化など、インバウンド観光客の受入環境整備を推進した。

5 伊木市政の3期目がスタート（4月）

任期満了に伴う令和7年4月20日執行の米子市長選挙において、米子市長に伊木隆司氏が再選された。

「住んで楽しいまちづくり 第三章」を掲げ、重点公約である「教育の充実と子育てしやすいまちづくり」をはじめとする7つの目標の実現に向けて、伊木市政の3期目がスタートした。

6 米子市ヘルスケアプラットフォーム事業の運用拡大（4月）

米子市と鳥取大学医学部附属病院が共同開発したスマートフォンアプリ「新とりりんりん」が、4月30日から山陰労災病院で運用を開始した。これにより、市内の主要4病院（鳥取大学医学部附属病院、博愛病院、米子医療センター、山陰労災病院）すべてで同アプリの利用が可能となった。

あわせて、関連する医療システムの地域での活用も広がり、地域医療DXの推進を通じた住民の利便性向上と質の高い医療サービスの提供に寄与している。

7 幼保小連携型施設（啓成小・東こども園）の運用開始（4月）

園児一人一人に対し、健やかな育ちのための質の高い教育及び保育を提供することをめざし、公立保育所の建て替え構想に基づく就学前施設と小学校との連携を一層推進するため、東保育園を幼保連携型認定こども園へ移行し、啓成小学校敷地内に設置することで、幼児期から児童期への円滑な接続を図る本市初の幼保小連携型施設として運用を開始した。

8 尾高城跡発掘調査が日本城郭協会「調査・整備・活用賞」を受賞（6月）

尾高城跡の発掘調査の取組が、日本城郭協会の「調査・整備・活用賞」を受賞した。現在進行中の米子城跡の整備・活用との連動を可能とし、山陰地域の戦国史をより豊かにすることが期待できる点が評価された。

9 米子・境港間高規格道路の事業化へ前進（6月）

米子・境港間の高規格道路について、国土交通省において3ルート帯案が示され、事業化の前提となる「計画段階評価」の手続が開始された。

本高規格道路の検討に際しては、住民や道路利用者等を対象としたアンケート調査や、事業内容等をパネル展示などにより説明し意見を聴取する「オープンハウス」が実施されるなど、事業化に向けた取組が進展した。

10 どらドラパーク米子市民球場リニューアル（6月）

どらドラパーク米子市民球場の改修工事が完了した。スコアボードのLED化により、試合を盛り上げる映像演出やスピードガンによる球速表示が可能となったほか、放送設備、照明設備及び内野スタンド席などを更新し、プレー環境及び観戦環境の向上を図った。

11 官民連携・泳力向上学習モデル事業の実施（6月）

市内小学校4校において、学校外の屋内温水プールを活用し、教職員と外部インストラクターによる水泳学習のモデル事業を実施した。

天候や水温に左右されない安定した環境の下で、児童の泳力向上に向けた専門性の高い指導が行われた。

12 米子アリーナ建設工事始まる（6月）

鳥取県と共同で整備する「米子アリーナ」について、令和9年度の供用開始に向けて建設工事に着手した。

13 全国高等学校総合体育大会、2競技（弓道・ウエイトリフティング）を開催（7～8月）

令和7年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ2025）が中国5県を中心に開催され、本市では弓道競技を7月31日から8月3日まで、ウエイトリフティング競技を8月7日から同月11日まで開催した。

全国各地から選手、関係者及び観客など延べ1万人を超える来場者を迎え、全力を尽くして競技に挑む高校生の姿に会場は熱気と感動に包まれた。選手をはじめ、大会運営等に携わった高校生にとっても一生の思い出に残る大会となった。

14 米子水鳥公園開園30周年（10月）、中海ラムサール条約湿地登録20周年（11月）

米子水鳥公園は開園30周年を迎え、開園日の10月に記念式典を開催、水鳥公園が位置する中海もラムサール条約湿地登録から11月で20周年を迎えた。また、3月には、豊かな自然を地域で守る米子水鳥公園の取組が、環境省が創設した「自然共生サイト」に認定された。

1 5 東京2025デフリンピックで小林優太選手が活躍（11月）

聞こえない、聞こえにくい人たちの国際スポーツ大会「東京2025デフリンピック」に、米子市出身の小林優太選手がハンドボール日本代表主将として出場し、その栄誉を讃え米子市スポーツ栄光賞を授与した。

初出場の日本は大会初勝利を挙げ、小林選手は初戦でチーム最多の5得点を上げるなど活躍された。

1 6 開庁時間の変更及び受付番号発券システムの導入（11月）

質の高い行政サービスを提供する体制の構築及び適切な労務管理による持続可能な組織運営の実現を目的として、開庁時間を「午前9時から午後5時まで」に試行的に変更した。

あわせて、「待たない窓口」及び「迷わない窓口」を推進するため、本庁舎1階の各窓口に受付番号発券システムを導入した。番号札の発券のほか、窓口の受付状況や混雑状況の案内、Webによる来庁予約機能等を備え、更なる利便性の向上を図った。

1 7 「人権尊重のまち米子市をつくる条例」の制定（12月）

社会情勢の変化や価値観の多様化に伴い、人権問題が複雑化する中、人権侵害のない、一人一人がお互いの人権を尊重し合うまちづくりをより一層推進するため、「米子市における部落差別をはじめあらゆる差別をなくする条例」の全部を改正し、「人権尊重のまち米子市をつくる条例」を制定した。（令和8年4月1日施行）

1 8 米子市日吉津村中学校組合が解散。箕蚊屋中学校は組合立から米子市立へ（3月）

米子市と日吉津村の生徒が通う箕蚊屋中学校を設置・運営する米子市と日吉津村とで構成する一部事務組合「米子市日吉津村中学校組合」は、より効率的で持続可能な中学校運営を行っていくことを目的に、令和7年度末をもって解散した。

あわせて、箕蚊屋中学校は、令和8年度からは、米子市立学校として設置・運営することとし、日吉津村から中学校事務の委託を受けることにより、引き続き、米子市と日吉津村の生徒が共に学ぶ学校としてスタートを切ることとなった。